

「神の民として」
出エジプト記 20 章 1－17 節

十戒は、「～してはならない」「～しなきゃならない」という厳しい禁止、命令の形で書かれています。だから「これを守らなきゃいけない、守らなかったら裁かれる」というような受け止め方をしてしまうこともあるかもしれません。でも、そんなことはないのです。神さまは、「この十戒を守らなかったら滅ぼすぞ」とか、「これを守ったら祝福してやる」といったことを言おうとしているわけではありません。

なぜ、そう言えるのか。それは十戒の前文のところで言われるように、「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神」(2 節) だからです。「あなたたちは奴隷の家から解放されるために何かしたか？わたしはあなたたちを救うために条件を付けたか？ただ、あなたたちは『苦しいです、助けてください』って叫んだだけじゃないか？」「しかも他のどの神が、あなたたちの叫びを聞いてくれたか？わたししかいないじゃないか。それはわたしが、どれほどあなたたちを愛して、大切に思っているかということの表れだ」と、神さまは言うのです。十戒は「単なる厳しい命令」ではなく、私たちを愛してくださっている神さまからの語りかけの言葉なのです。

十戒は、内容的に大きく二つに分けることができます。それは 2－11 節までの前半部分と、12 節以降の後半部分です。第一戒から第四戒までの前半部分は、私たち人間が神さまとどのような関係の中で生きるべきかとを教えています。そして 12 節からは、人との関係の中でどのように生きるべきかということが、六つの戒めとして記されています。

聖書は、人と人との関わりの背後には神さまとの関わりがあって、その人が神さまとどのような関係を持っているかによって、人との関わりも変わってくると教えています。つまり、私たちの人間関係が、豊かで平和な関係として築きあげられていくかどうかは、まず神さまと自分がどのような関わりを持って生きているかということが大きな影響を及ぼすのです。それゆえ、十戒は、はじめの四つの戒めで、神さまとの関係を問い、後半の六つの戒めで、あなたとあなたの家族、友人、人と人との関わりをどのように築いているかを問われるのです。

けれども、神さまが愛をもって私たちに臨んでくださっていても、すぐに事態が良くなるとは限りません。イスラエルの人たちは、約束の地に導かれるまでに 40 年も荒野で放浪の旅を続けることになりました。メシアの到来が預言されてからイエスさまが生まれるまでには何百年も待たされました。おまけに、キリストの再臨に至っては 2000 年経ってもまだ現在進行形で待たされています。神さまの時と、私たちが願う時とでは、とてつもなくギャップがあったりします。そして、そのギャップに耐えられない私たちは、ついつい、他のものに頼ろうとしてしまうのです。たとえばお金、地位、権力。お金があれば、大抵のものは買えるし、地位や権力があれば、自分の思うように物事を進めることが出来るかもしれません。

でも、これらは私のことを愛してはくれません。便利だし、役に立つし、あって損はないものだけど、いつかは、無くなったり、壊れたりするものです。でも、私たちの神さ

まは違います。私たちを「義の右の手で救い出す」と約束してくださった神さまの原動力は、私たちへの愛です。愛するわが子のために注がれる無限の愛です。そのことを、イエス・キリストの生涯、イエス・キリストの十字架を見る時、私たちは知らされます。神の愛を踏みにじり、イエスさまを十字架にかけてしまうような私たちのために、赦しの贖いとなってくださったのです。

神さまは、私たちが自らの罪によって滅びの道へと向かってしまうのを良しとされません。だからこそ、「イスラエルよ、聞きなさい」と諭し、神のことばを告げられるのです。何千年も昔、イスラエルの人々に語られた十戒は、今、私たちにも語られている神さまの大切な十の言葉です。その一番初めの戒めは、「あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない」という言葉です。

この言葉は「わたし以外のものを神と呼ぶな！」という、厳しい禁止の言葉ではありません。神さまは「わたし以上にあなたを愛しているものなんて他にはいないし、あなたを愛するからこそ、あなたを助ける。だから、愛する心すら持たない他のものを神と呼ぶような虚しいことをしないで、わたしの愛に、あなたも愛で応えてほしい」って、そう私たちに語りかけてくださっているのです。